

平成 30 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 ヤマト・インダストリー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 杉浦 大助
 (J A S D A Q ・ コード 7886)
 問合せ先責任者 取締役管理本部統括 茂木 久男
 (T E L 03-3834-3111)

特別損失の発生ならびに連結業績予想値と実績値との差異、通期個別業績と前期実績との差異に

関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表した平成 30 年 3 月期(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)の連結業績予想値と比較して、本日公表の実績値において差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

あわせて、通期個別業績については、前期実績値との対比において差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異および個別業績と前期実績値との差異

(1) 連結業績(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回予想 (A)	15,000	230	180	110	円 銭 10.94
実 績 (B)	14,649	△88	△56	△141	△14.12
増減額 (B-A)	△351	△318	△236	△251	—
増 減 率 (%)	△2.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	13,952	344	157	289	28.85

差異が生じた理由

売上高は、中国生産工場ならびに国内においてOA部品等、主力商品の落込みにもかかわらず、新規連結子会社及びフィリピン生産工場が順調に増加推移したことにより、連結での前期比較 6 億 97 百万円の増加となりました。しかしながら、結果としては、前回予想を 3 億 51 百万円下回りました。利益面では、主力商品のOA部品の落込みや、新規連結子会社の業績改善費用が増加したことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに、前回予想を下回ることとなりました。

(2) 個別業績 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績 (A)	6,582	△72	△21	△102	円 銭 △10.22
実績 (B)	6,712	△121	△22	△73	△7.33
増減額 (B-A)	130	△49	△0	29	—
増減率 (%)	2.0	—	—	—	—

差異が生じた理由

主力取扱商品の自動車部品等の売上が減少しましたが、物流機器において大口顧客向けを受注したことにより、売上高は前期実績を上回りました。利益面につきましては、高付加価値商品の売上が減少し営業利益は前期実績を下回りましたが、当期純利益は、関係会社からの受取配当金の増加及び関係会社株式評価損が減少したため前期実績を上回りました。

2. 個別財務諸表の特別損失の計上について

個別財務諸表において、保有する関係会社株式が、簿価に比べ実質価額が著しく下落している為関係会社株式評価損 48 百万円を計上することになりました。

なお、関係会社株式評価損の計上につきましては、個別財務諸表には影響を与えますが、連結財務諸表には、影響がございません。

以上